

NAGOYA CONNECT Weak Ties 女性コミュニティからの意見聴取について

1 趣旨

NAGOYA CONNECT Weak Ties 女性コミュニティにおいて、当地域で女性が更なる活躍をするために必要な課題等を把握するため、社会全体の課題や当地域固有の課題について意見聴取を行いました。

2 開催日時・場所

令和4年9月30日（金） 19時00分～20時00分

TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋駅前

（西区名駅1-1-17 名駅ダイヤメイテツビル3階）

3 出席者

NAGOYA CONNECT Weak Ties 女性コミュニティのメンバー9名

（うち1名はオンライン参加）

4 主な意見

<女性の活躍について>

- ・女性は良いサポート役という刷り込みがあると感じている。
- ・女性は間接業務が多いため KPI が無く、業績と評価が曖昧になりがち。
- ・ロールモデルが今まで周りにいない。
- ・求めるロールモデルは変わっていくものだと思っている。また複数あっていいと思っている。目標ではなく、参考値として機能する方がよい。
- ・女性は同じ業務に従事していることが多い、ローテーションがないためキャリア形成が難しい。一方で転職のハードルも高く、転職希望もないため、社内でもっと対流（循環）できる仕組みがあると良いと思う。
- ・女性の働き方について、「働くママ」のみにフォーカスされがちだが、もっと多様な女性たち（未婚、既婚、子の有無、正規雇用、非正規雇用、起業など）の働き方を紹介する必要がある。働き方や生き方の多様化を示すこと、それを知ることが重要である。
- ・女性活躍推進は、女性のためだけのものではない、ということを女性自身も男性も知ることが必要。女性が働かなければ、今後の経済を維持できない。（生産性をあげられなければ、男性はより長時間労働になる。）

＜女性の関東圏への流出について＞

- ・東京の方がチャンスもあり、多様性もあるため、流出することは仕方がないが、その後に戻って来ないことに課題がある。
- ・名古屋の企業は女性がキャリアを積めるようにしないといけない。
- ・働く女性にとって時間と場所が課題だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりテレワークが普及したことで状況が変わってきた。
- ・名古屋、愛知はテレワークを積極的に推進している会社が少ない。東京本社の企業、グローバル企業、スタートアップなどの企業は名古屋でもテレワークが多いと感じている。新しい働き方の格差が首都圏と地方と大きくなっている。
- ・完全リモート勤務で、愛知県に住みながら東京のマネージャーをしている同僚もいる。
- ・「仕事のペースを落とさずに働きたい人」もいると思うが「仕事のペースを落としてバランスをとって働きたい人」にとって、名古屋は住む場所として適している。

＜名古屋の長所・短所＞

- ・この地域は製造業が安定している。先日、イベントを開催したら、女性技術職のリーダーが40人近く集まった。この地域は女性の技術職が活躍できる地域であるということを見せるもの良いのではないかな。
- ・女性リーダーは東京では埋もれてしまうが、名古屋では目立つ存在になれる。
- ・一回外に出てみると、名古屋は歴史もあり、海も山もある良い所だとわかる。流行を追わず、名古屋モデルというか一番手に行かないという性質を逆手に取るのも良いのではないかな。
- ・東京と名古屋では、本社のある東京の方が仕事の幅があるが、最近は東京と名古屋で給料に差がなくなってきたので、東京に行かなければならないということでもなくなってきたと感じている。
- ・名古屋は子供が病気の時に預ける施設が少ないが、東京は多くある。病児保育の充実が必要。
- ・働く楽しさが親世代には伝わらない。お金のためだけに働いているわけではない。